

ISSN 0910-2396

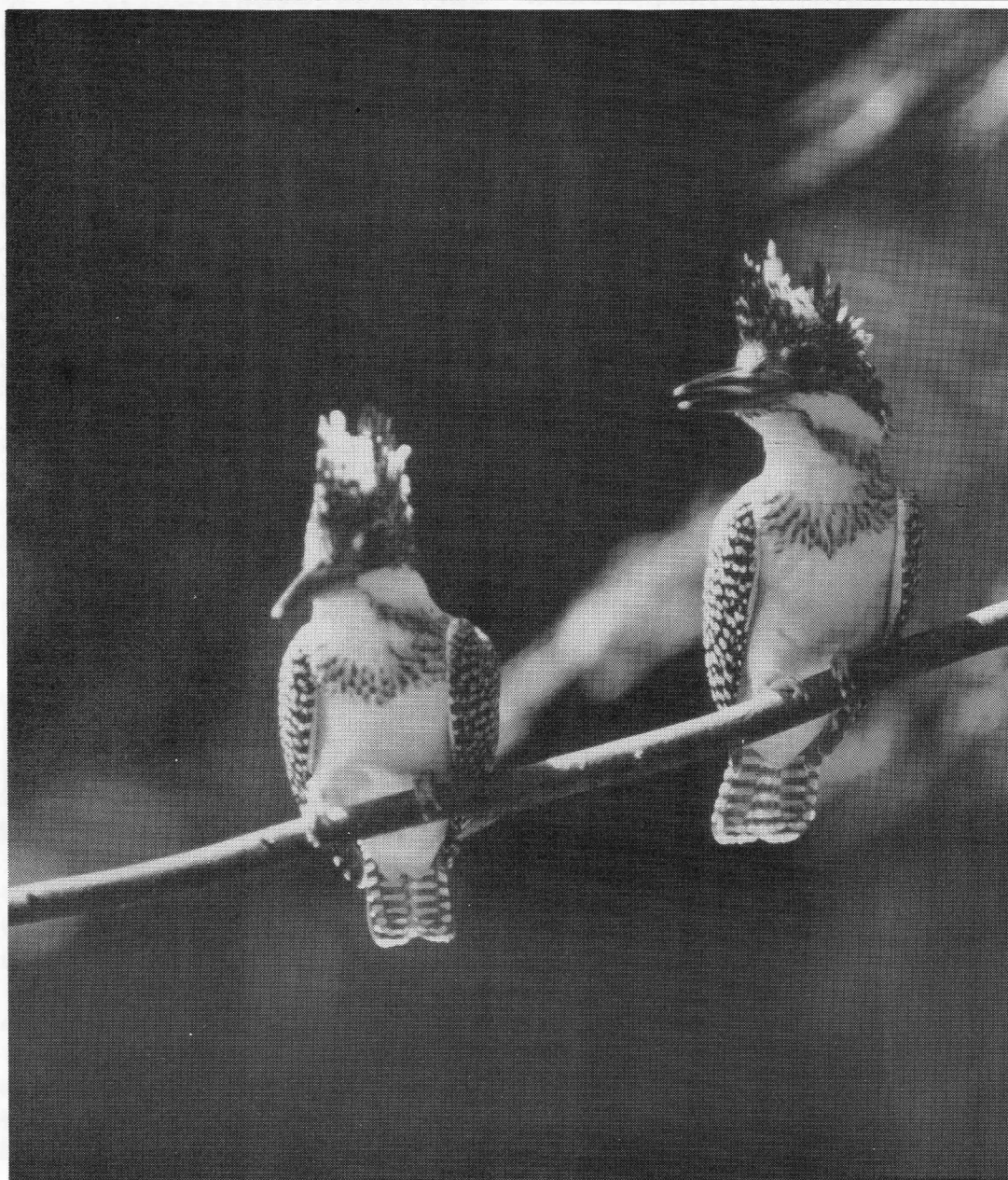
野鳥友刊

—北海道—

第 86 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 3 年12月21日



ヤマセミ 1985年 8 月 撮影者 赤石 誠 二

野村 悟郎さんを悼む

小堀 煌治

野村さんの訃報を聞いたのは8月13日だった。「まだ早過ぎるなあ」、「やっぱりか」という想いが交錯した。ここ数年間のすさまじい闘病生活。「昼間の勤めは何とかなるが夜の会合は疲れてね」と言いながらも幹事会に顔を出してくれた野村さん。それでも自然と鳥を愛し続けた氏の生への執着に期待していたのですが……。

うだるような暑さの中、手稲・西野の公民館のお通夜に参列した。野鳥の会支部長の土屋さん、柳沢会長、羽田さんらの姿が見え、式は神式で簡潔に肅然と進行した。前方に座っている羽田さんの横顔を見ていると、羽田さんが萩千賀さんへの追悼文に書いていた「胸の中を風が吹いているようだ」がフット頭をよぎって行った。式の最後に若い神主さんが野村さんの思い出を語る中で「今年の1月に奥さんを亡くした野村さんが亡くなる直前に病院から外出許可を取り、帰宅し、半日奥さんの写真の前に座り、病院に帰って行ったんですよ」と語り、涙ぐんでしまった。生死を超越したはずの神職にまで涙を流させる野村さん。その人柄を語るに余りある光景でした。

野村さんは昭和31年に宮崎大学を卒業して来道し、道庁林務部に就職し、60年に退職し北海道野鳥会専務理事の職に就きました。61年には長年の功績が認められ、鳥類保護連盟会長褒賞を受賞されました。北海道野鳥愛護会は昭和45年に創立され、当時の事務局は道庁林務部にありました。野村さんは最初から会の幹事として会の創立、その揺籃期に尽力されました。その後、日本は高度経済成長期に入り、経済（開発）を優先する世の中になり、行政は野鳥愛護を優先することがむづかしくなり、

愛護会の事務局も道庁を出て民間主導になりました。野村さんは行政と愛護会の間に入り、ずい分苦勞したと思いますが、常に愛護会を暖く見守ってくれました。愛護会で始めて出した絵ハガキ「北海道の珍しい鳥たち」を発売し、完成させたのも野村さんの力です。

朴訥でシャイな九州男児の野村さん、ストレートに自分を見せるような人ではありませんが、最後の力をふりしぼった詩集「和む風 荒ぶ風 人の世の風」には見事に氏の人間味が表現されています。

ハシボソガラス
河川敷地のハルニレに
ハシボソガラスが巣を作りました
ぼくの家から五メートルほどのところ
巣からちよつと尾羽根をはみださせて
熱心に卵をあたたかめる
おとなしい黒い鳥です
カラスの巣に石を投げた人がきました
何度か何回も
それでも親鳥は巣から離れませんでした
石は少しづつはたて始めました
親はみづから黒い鳥になりました
今にみていると思えば黒い鳥になりました
遠慮なく人を襲う黒い鳥が現われたのです
ハシボソガラスは襲う黒い鳥が現われたのです
危険な鳥とすれまわると
危ない鳥とすれまわると
恐ろしい鳥とすれまわると
ぼくは知っています
ハシボソガラスだっただけのこと

松本 光二さんを悼む

山田 良造

5月13日付北海道新聞《まど欄》に、松本光二氏の死を悼む記事が掲載されました。氏は旧くからの北海道野鳥愛護会会員ですが、1昨年春に名寄農業高校から、札幌稲雲高校に転動するまでは、長年に亘り「名寄野鳥の会」事務局長として、会の設立や運営面に尽した最大の功勞者でした。今年この会の業績が高く評価され、「道社会貢献賞」を受賞されましたが、氏はこの喜びの知らせを受ける前の5月4日、43歳の若さで帰らぬ人となりました、実に残念なことです。

松本さんは根っからの鳥好きで、私とは鷹栖高校の教員をしていた頃からの鳥仲間でした。1984年6月13日、音威子府山中で、倒壊した枯木に営巣したクマガラのヒナ2羽を保護し、家族ぐるみで餌となる蟻の卵を集め、

ヒナが成長して放鳥するまでの、40日間の貴重な飼育記録を鳥学会に報告し、この記録コピーを私にも送ってくれたこともありました。

愛護会では、会報56号表紙に氏が撮影した「サカツラガン」、会報57号に「名寄周辺の野鳥」、会報63号には「私の探鳥地名寄公園」等数多く発表されております。また古い会員の中には氏の案内を戴き、名寄でのコアカゲラ等観察に、大変お世話になりました。

昨年体をこわし入院していると聞いていましたが、お亡くなりになったと知り、本当に惜しい人を失い残念でたまりません、会員の皆様と共に心から氏のご冥福をお祈りしたいと思います。

利尻島における野鳥観察リスト

小杉和樹

はじめに

利尻島へは、北海道本土最北の稚内市から航路で1時間半か、空路で僅か15分間で訪れることができます。離島という言葉が当てはまらない程、交通の利便は高まり「最北の島、利尻」は、そう遠い地ではなくなりました。そしてこの最北の島では、実に多くの鳥たちを観察することができます。この報告は、これまでの観察リストと簡単な解説を加えたガイド的なものになりました。リストを中心に見て頂ければ幸いです。そして、利尻島の鳥に想いを馳せて、是非来島をしてみてください。

利尻島の概要

利尻島は北海道北部の日本海に位置する、周囲53kmのほぼ円形をした小さな島です。北海道にある他の島しょの中では大きいものの、広さが183Km²と奥尻島よりやや広い程度です。中央には、アイヌ語の「高い山」を意味する「リーシリ」の名の付いた利尻山があります。

この利尻山は標高が1721mで、頂上からはほぼ円錐形に豊かな裾野が広がり、海岸に達します。その海岸の大部分は、転石や岩礁によって構成され、ごく一部の小範囲に砂浜が見られます。多くの地区では、海岸からごく僅かな平地を挟んで、急な斜面となって山麓へと続き、その僅かな平地に島内を環状する道路と民家があります。また、平野部が発達した地域に、幾つかの市街地があります。

そして、民家の周りからイタドリやチシマザサ等で構成された草原を経て、山麓はトドマツを主にエゾマツ、ダケカンパの針広混交林が広がります。標高500m前後からハイマツとダケカンパ、ミヤマハシノキ等の亜高山帯になり、1100m辺りから高山帯となります。

季節的な変化

利尻島の春は、3月上旬のウミネコの渡来から始まり、それより遅れてハクセキレイとヒバリが3月下旬に渡来しますが、ハクセキレイが少しばかり早いようです。そして、海岸であれだけ見られた越冬種のシノリガモやウミアイサが北へ渡去してごく少数になる頃、顔なじみのノビタキやアオジといった夏鳥の渡来が盛んになります。その後、夏鳥の渡来と相まって、北上する旅鳥が飛来し始め、そのピークは4月下旬～5月下旬の1月間程で、その間に実に多くの種が観察されます。その中には、迷鳥とされている幾つかの種類もあります。

6月上旬に、エゾセンニュウのさえずりが聴こえ始めると、いよいよ利尻島も夏となり、観察される種も当地

で繁殖をするものに落ち着きます。

7月下旬から秋の渡り期になり、始まりはシギ、チドリ類からです。利尻島には良く発達した湿地が無いので、シギ、チドリ類のほとんどが海岸で観察されます。またこの時期から、少数が残留しているらしいシノリガモの観察回数が多くなります。そして、ガン・カモ類の淡水ガモがオタドリ沼やメヌウショロ沼といった小さな湖沼に降りるようになります。シギ・チドリ類が渡り切ってしまうのは9月下旬で、その頃ツグミが少しづつ観察されるようになります。

10月上旬には、利尻山山頂に初冠雪が記録され、その頃秋の渡りも一段落し、カシラダカやキマユホオジロといったホオジロ類の仲間が南下していくと、いよいよ利尻島は冬となります。そして、海上ではシノリガモやウミアイサといった冬鳥が頻りに観察されるようになり、その年によって渡来数に差があるもののウミスズメが港内や岸近くで観察されるようになります。

11月中旬には、平野部でも雪の降ることが多くなり、観察される種類も、海上や港内でウミスズメ類やオオハムや海ガモ類の海鳥か、森林性のカラ類キツツキ類といった種だけになります。そのような状況が、翌年の2月下旬頃まで続きます。

利尻島の鳥の特徴

利尻島で、これまでに観察された鳥は221種です。これは、私の観察とこれまで文献等によって報告されているものの数で、その内容はリストのとおりです。

221種の構成は、夏鳥が30%、冬鳥が10%、留鳥が10%、迷鳥を含めた旅鳥が50%となり、旅鳥が最も多くなっています。これは、島しょ独特の特徴といえ、利尻島では更に大陸の沿海州に近いことから、大陸に分布しているルリガラ、ズアオアトリ、シマノジロ、セグロサバクヒタキといった種の迷行例の観察もあります。しかし、逆に大陸やサハリンに近いので、利尻上空を一気に飛ぶのか、ハクチョウ類やガンの飛来が非常に少なく、ほとんどの観察は悪天時の避難例です。また、利尻島は湖沼地帯が小規模なことから、観察されるガン・カモ類の数は1種当たり10羽を越えることは稀です。この他、稚内～利尻間の航路上でミズナギドリ類やアカエリヒレアシギの大群、少数のトウゾクカモメ類が観察されます。

夏鳥では、島しょでありながら面積的な広さによるの
(以下7頁につづく)

利尻島における野鳥観察リスト

No	科	名	種	名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	アビ		オオハム		●	●	●	●								●
2			ハシヅロアビ													
3	カイツブリ		カイツブリ		●										●	
4			ハシロカイツブリ												●	
5			ミミカイツブリ		●	●	●	●								●
6			アカエリカイツブリ		●	●	●	●								●
7	ミズナギドリ		フルマカモメ								●					
8			アカアシミズナギドリ						●	●	●					
9			ハイイロミズナギドリ						●	●	●					
10			ハシボソミズナギドリ						●	●	●					
11	ウミツバメ		コシジロウミツバメ								●					
12	ウ		ウミウ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13			ヒメウ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	サギ		オオヒシゴイ													
15			ササゴイ								●					
16			ゴイサギ								●					
17			アマサギ								●					
18			ダイサギ								●					
19			チュウサギ								●					
20			コサギ								●					
21			アホサギ								●					
22	ガンカモ		マガン								●					
23			ヒシクイ													●
24			オオハクチウ													●
25			コハクチウ													
26			オシドリ								●					
27			マガモ								●					
28			カルガモ								●					
29			コガモ								●					
30			シマアジ								●					
31			ハシビロガモ								●					
32			ヒドリガモ								●					
33			オナガカモ								●					
34			ホシハシロ								●					
35			キンクロハシロ								●					
36			スズガモ								●					
37			クロガモ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

No	科	名	種	名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
38	ガンカモ		ビロードキンクロ			●										
39			シノリガモ		●	●	●	●	●	●						●
40			コオリガモ		●	●	●	●	●	●						●
41			ホオヅロガモ		●	●	●	●	●	●						●
42			ウミアイサ		●	●	●	●	●	●						●
43			カワアイサ													●
44	ウシタカ		トビ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
45			オジロワシ		●	●	●	●	●	●						●
46			ノスリ									●				
47			ハイタカ									●				
48	ハヤブサ		ハヤブサ								●					
49			チゴハヤブサ								●					
50			コチウゲンボウ								●					
51			アカアシチウゲンボウ								●					
52	タイナ		ヒメタイナ								●					
53			バン								●					
54	チドリ		コチドリ									●				
55			シロチドリ									●				
56			メダイチドリ									●				
57			ムナグロ									●				
58			タグリ									●				
59	シギ		キウジョシギ									●				
60			トウネン									●				
61			アメリカウズラシギ										●			
62			ハマシギ										●			
63			コオバシギ										●			
64			コアオアシシギ										●			
65			アオアシシギ										●			
66			イソシギ										●			
67			クサシギ										●			
68			タカブシギ										●			
69			キアシシギ										●			
70			チュウシャクシギ										●			
71			オバシギ										●			
72			ミユビシギ										●			
73			ソリハシシギ										●			
74			オオソリハシシギ										●			

No.	科 名	種 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
75	シギ	ヤマシギ							●					
76		タシギ				●								
77		オオシギ				●								
78	セイタカシギ	セイタカシギ				●								
79	ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ				●								
80	ツバメキドリ	ツバメキドリ			●									
81	トウゾクカモメ	クロトウゾクカモメ								●				
82		トウゾクカモメ				●								
83	カモメ	ユリカモメ									●			
84		セグロカモメ		●									●	
85		オオセグロカモメ		●									●	
86		ワシカモメ		●									●	
87		シロカモメ		●									●	
88		カモメ		●									●	
89		ウミネコ			●								●	
90		ミツエビカモメ			●								●	
91		ハシロクロハラアジサシ				●							●	
92		コアジサシ											●	
93	ウミスズメ	ウミスズメ		●									●	
94		ハシブトウミスズメ		●									●	
95		ケイマフリ			●									
96		マダラウミスズメ			●								●	
97		ウミスズメ		●									●	
98		エトロフウミスズメ			●									
99		コウミスズメ		●									●	
100		ウトウ		●										
101	ハト	ベニハト		●										
102		キジバト			●								●	
103		アオバト			●								●	
104	ホトトギス	カクコウ			●								●	
105		ツツドリ			●								●	
106		ホトトギス				●								
107	フクロウ	シロフクロウ											●	
108		コノハズク				●							●	
109		コノハズク											●	
110	ヨダカ	ヨダカ						●						
111	アマツバメ	ハリオアマツバメ						●						

No.	科 名	種 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
112	アマツバメ	アマツバメ					●							
113	カワセミ	ヤマシロウビシ					●							
114		カワセミ						●						
115	ブッポウソウ	ブッポウソウ						●						
116	ヤツガシラ	ヤツガシラ							●					
117	キツツキ	アリスイ								●				
118		ヤマゲラ		●									●	
119		クマガラ		●									●	
120		アカゲラ		●									●	
121		コアカゲラ		●									●	
122		コゲラ		●									●	
123	ヒバリ	ヒバリ											●	
124	ツバメ	シロウドウツバメ											●	
125		ツバメ											●	
126		コシアカツバメ											●	
127		イワツバメ											●	
128	セキレイ	ツメナガセキレイ											●	
129		セキレイ											●	
130		ハクセキレイ											●	
131		セグロキセキレイ											●	
132		ピンズイ											●	
133		タヒバリ											●	
134	サンシロウグイ	サンシロウグイ											●	
135	ヒヨドリ	ヒヨドリ		●									●	
136	モズ	モズ											●	
137		アカモズ											●	
138		オオモズ											●	
139	レンジャク	キレンジャク											●	
140		ヒレンジャク											●	
141	ミソサザイ	ミソサザイ											●	
142	イワヒバリ	イワヒバリ											●	
143		カヤクグリ											●	
144		コマドリ											●	
145	ヒタキ	ノゴマ											●	
146		コルリ											●	
147		ルリビタキ											●	
148		ジョウビタキ											●	

No.	科 名	種 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
149	ヒダキ	セグロサバクヒダキ													
150		ノビダキ													
151		イソヒヨドリ													
152		マミジロ													
153		トラツグミ													
154		クロツグミ													
155		アカハラ													
156		マミチヤジナイ													
157		シロハラ													
158		ツグミ													
159		ヤブサメ													
160		ウグイス													
161		エゾセンユウ													
162		シマセンユウ													
163		マキノセンユウ													
164		シベリアセンユウ													
165		コトシキリ													
166		オオトシキリ													
167	エゾムシクイ														
168	コマボソムシクイ														
169	センダイムシクイ														
170	キクイタダキ														
171	マミジロキビダキ														
172	キビダキ														
173	ムサマキ														
174	オシロビダキ														
175	オオムシ														
176	サメビダキ														
177	エゾビダキ														
178	コサメビダキ														
179	エナガ	シマエナガ													
180	シジュウカラ	ハシブトガラ													
181		ヒガラ													
182		ヤマガラ													
183		シジュウカラ													
184		ルリガラ													
185	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ													

No.	科 名	種 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
186	キバシリ	キバシリ												
187	メジロ	メジロ												
188	ホオジロ	ホオジロ												
189		ホオアカ												
190		カシラダカ												
191		ミヤマホオジロ												
192		シマアオジ												
193		アオシ												
194		ノジロ												
195		シマノジロ												
196		クロシ												
197		オホシユリン												
198	アトリ	アトリ												
199		ズアオトリ												
200		カウラヒワ												
201		マヒワ												
202		ベニヒワ												
203		ハチマシロ												
204		オホマシロ												
205		オホサンマシロ												
206		イスカ												
207		ベニマシロ												
208		ウソ												
209		イカル												
210		シメ												
211	ハタオリドリ	ニューナイスズメ												
212		スズメ												
213		イエスズメ												
214	ムクドリ	コムクドリ												
215		ホシムクドリ												
216		ムクドリ												
217	カラス	ミヤマカケス												
218		ホシガラ												
219		ハシボソガラ												
220		ハシブトガラ												
221		ワタリガラ												

か、北海道本土の夏鳥の種と共通するものが多いようです。しかし、コシアカツバメ、ツバメといった暖地での営巣が知られている種の繁殖も観察され、利尻山山頂付近ではギンザンマシコとハギマシコの繁殖期の観察例も最近多くなっています。海岸では、海鳥のオオセグロカモメとウミネコが繁殖していますが、近年ウミネコが牧場内でコロニーを形成し、年々その範囲が拡大しています。

冬鳥では、最北のより厳しい環境の中、平野部で見られる種はカラス2種とスズメだけとなる一方、周囲が海である利尻島では、海鳥が多くなります。中でも、シノ

リガモ、ウミアイサが優占種で、他にはウミガラス、ハシブトウミガラス、ケイマフリといったウミスズメ類が中心です。しかし、北海道で普通に観察される海ワシは、オジロワシ1つがいが越冬するだけで、利尻島では四季を通して猛禽類の観察は多くありません。

以上のように、利尻島の鳥の特徴は、地理的な特異性に因る多彩な顔ぶれの旅鳥にあります。また、地理的な特異性もさることながら、比較的稀な繁殖記録もあるなど、良好な環境とその多様性は、鳥たちとりわけ渡り鳥の重要な中継地点となっています。

〒097-04 利尻町杓形字富士見町

北海道に舞い降りた迷鳥たち (8)

山田良造

北海道の北部、ごく限られた地域だけに繁殖するキマユツメナガセキレイを見るため、今年の夏、2年続けてサロベツ原野に行った。珍鳥と言われるこの鳥は、コバイケイソウの白い花に止まり囀っていた。鳥たちの生息

地湿原が、周りの草地開発が進んでいるのを見て、このまま是非残したいと思った。

今回の迷鳥記録は、旭川市小菅正夫氏、札幌市島田明英氏、それに私の記録です。

27. ワシミミズク (フクロウ科)

旭川市東旭川町倉沼旭山動物園小菅正夫氏の記録によると、旭山動物園に保護されたワシミミズクは3例ある。その1. 1978年9月8日 歌登～枝幸間道道で、保冷車にはねられたワシミミズクが、旭山動物園に保護されたが、怪我も回復し9月17日放鳥された。

その2. 1983年8月13日 浜頓別～枝幸間で列車にはねられたワシミミズク♀が、翼を断翼し釧路動物園に収容され、その後旭山動物園に保護された。

その3. 1986年9月23日 旭川市新星町で、カラスに襲われ衰弱していたワシミミズク♀が、旭山動物園に保護され、ヨーロッパ産のワシミミズク♂と繁殖のため、ペアリングを試みられている。

ワシミミズクは全長約66cm。体は全体褐色で、背翼の上面は濃い黒褐色、頭、胸、腹に黒褐色の斑があり、くちばしは黒色。頭には耳のように見える羽角があり、足と指は羽毛でおおわれている。

ヨーロッパの大部分からシベリアの中部、オホーツク海岸にいたる地域、アラビヤ半島、サハラ砂漠以北のアフリカで繁殖し、日本では北海道北部にまれに渡来記録



ワシミミズク 1991年4月27日
旭川市旭山動物園 山田良造撮影

がある。

記録のある地域は、五島列島、三宅島、奄美大島、北海道では1978年9月8日歌登。1983年8月13日浜頓別、1984年士別市オソネベツ川、1984年4月8日滝川市江部乙あいガモ飼育場、1986年9月23日旭川市金星町、1990年10月稚内市緑町南小学校の森。

28. シロハラクイナ (クイナ科)

四季を通じて赤レンガの美しい姿を見せる北海道庁。広く道民に親しまれ、札幌の観光地として多くの人が訪れるこの道庁前庭で、1989年11月22日、朝の巡回をしていた警備員が、見なれぬ鳥が弱っているのを発見し保護

した。石狩支庁を通じて連絡を受け、野生生物情報センター島田明英氏が受取り、シロハラクイナと同定した。カラスのしつこい襲撃にあい弱っていたもので、外傷もなく元気だったことから、その日の午後、札幌市東米里

の草原に放鳥した。

シロハラクイナは、全長約32.5cm。頭部から背、尾、翼は灰黒色、額から顔、胸、腹などは白色、下尾筒は栗色、くちばしは黄緑色、基部に赤色がある。足は緑黄色。

インドネシア、インド、中国南部、台湾、フィリピンなどに広く繁殖し、日本では琉球で繁殖し、留鳥として生息する。本州、四国、九州、対馬、舩倉島で迷行的な記録がある（九州でも繁殖記録がある）。

北海道では1983年12月23日、苫小牧市勇弘と前記記録。



シロハラクイナ 1989年11月22日
札幌市道庁前庭 島田明英撮影

29. ツルクイナ (クイナ科)

1977年10月18日の夜、旭川市3条8丁目緑橋通に面した駐車場管理室に「どーん」と音がして渡り途中の鳥がぶつかった。

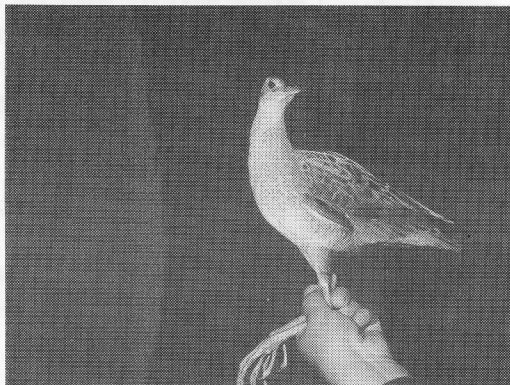
この鳥は保護されて駅前交番に届けられた。連絡をうけた私はこの鳥を受取り、その特徴などから冬羽のツルクイナであることがわかった。怪我もなく元気だったことから1晩保護し、翌日上川支庁自然保護係員と、旭川市郊外嵐山近くのオサラッペ川岸辺で放鳥した。

この鳥は旭川中心部に輝くネオンに惑わされて、ぶつかったのだろうか？これがそのときのツルクイナです。

ツルクイナは全長約33cm。♂夏羽は全体黒色、くちばしは黄色、額板は大きくて赤色、足は緑褐色。♂の冬羽は♀に似るが体が大きい。♀は額板を持たず、全体が褐色で背と翼の上面黒褐色で斑がある。くちばしは黄褐色。

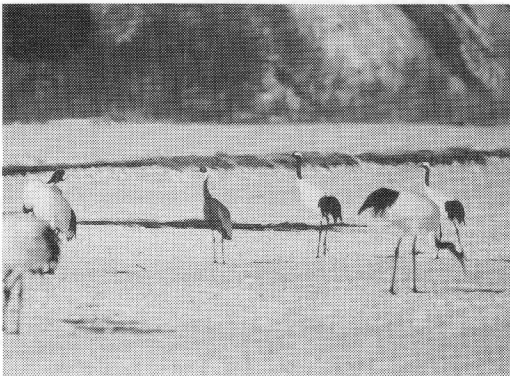
インド、スリランカ、マレー半島、フィリピン、中国、朝鮮半島、日本の一部で繁殖。北のものは冬、南へ移動する。日本ではおもに旅鳥または冬鳥。南西諸島以外ではごくまれであるが、佐賀と石垣島で繁殖記録がある。

北海道では1932年奥尻島と美国町稲穂崎、1976年10月根室市春国岱に記録がある。



ツルクイナ 1977年10月18日
旭川市3条8丁目 山田良造撮影

30. マナヅル (ツル科)



マナヅル 1981年1月17日
阿寒町タンチョウの里 山田良造撮影

1981年1月16日 私が旭川に住んでいた頃、阿寒町タンチョウの里に、マナヅルが2年続けて飛来したことを知り、観察に出かけた。

この日、阿寒町タンチョウ観察センター給餌場には、タンチョウが70羽位飛来していた。この群れにタンチョウよりひとまわり小さく、体が青灰色したマナヅルが1羽入っているのが確認された。

マナヅルはタンチョウと一緒に餌をついばみ、ときには飛び跳ねたり、タンチョウが飛ぶとその後を追うなど、タンチョウと行動を共にしていた。

このマナヅルは、1980年12月11日同センターに飛来し、1981年4月まで越冬し飛び去った。

マナヅルは全長約127cm、額から目のまわりは赤く、頭から首は白色、体は青灰色、胸は灰黒色、くちばしは黄緑色、足は淡紅色。

シベリア南東部、モンゴル北東部、中国東北部湿原で繁殖し、冬は朝鮮半島、中国北部、日本などに渡る。日本には冬鳥として渡来するが、鹿児島県出水市荒崎には、1988年は1,653羽記録された。その他の地域はまれな迷鳥。

北海道には、1871年千歳、1978年10月1日～10月19日網走湖畔、1979年12月24日～1980年4月阿寒町、1980年12月11日～1981年4月阿寒町（前記記録）、1984年4月23日北村、同年5月～6月1日奈井江町（2羽）、1985

年3月1日ウトナイ湖。

<参考文献>

日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）、鳥630図鑑（日本鳥類保護連盟）、日本鳥類大図鑑（清棲幸保）、青い星のヅルたち（北海道）、北海道新聞報道記事参照。

〒003 札幌市白石区栄通16丁目4-13

※ 掲載予定のセボシカムリガラは、日本野鳥の会記録委員会からの回答が遅れており、次号に予定します。

自然環境部をよろしく

— 北海道環境科学研究センター —

村野紀雄

本年5月23日に北海道環境科学研究センターが北海道公害防止研究所を改組、改名して設立されました。

これにともない、北海道の自然環境の保全を目的とする調査研究部門として自然環境部が誕生し、新部の基礎づくりと調査研究の準備と一部実施に向けて歩みだしております。

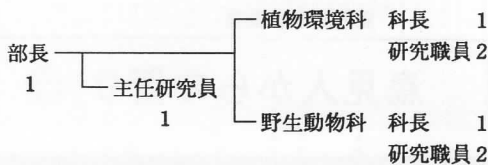
自然環境部は野生動・植物の生態や生態系のメカニズムの研究と、これらをふまえた野生動植物の適正な保護管理のための調査研究を担うこととなります。

自然環境の保全を前面に掲げた研究組織としては国や自治体の中では初めてということでもあり、寄せられる研究課題は多大ですが、皆様の御指導、ご協力をいただきながら、着実に成果をあげてゆきたいと考えております。ご支援いただけますようどうぞよろしくお願いいたします。

なお、現在の部構成及び各科の調査研究の内容はつぎの通りです。

植物環境科

- 1 植物群落や特定植物の保全対策の基礎となる植物の生態や分布に関する調査研究。
- 2 道立自然公園その他すぐれた自然地域の現況と保



全に関する調査研究。

- 3 生態系の保全をはかるための植物と動物との相互関係についての調査研究。

野生動物科

- 1 野生動物保護管理のための生息環境や分布、生態、個体数等に関する調査研究。
- 2 希少種の保全に関する基礎的な研究
- 3 有害鳥獣による被害実態及び防除に関する調査研究。

とくに、野生動物科では現在、エゾシカとヒグマの個体数調査に主力を注いで動き出していますが、野鳥についても調査研究を進めていく予定です。ちなみに部員の中には野鳥関係で梅木さん、富沢さんもおります。お近くにおいでの際にはどうぞお声をかけてください。

〒069-01 江別市大麻東町7-11

(トリミニスト)

鳥見人からの便り ①

浦幌のハクガン

武藤満雄

平成3年3月26日十勝郡浦幌町愛中のデントコーン畑あと地にオオハクチョウ、コハクチョウ、オナガガモの群と一緒に初認された。

それからは毎日時間をみつけては、ハクガン観察の日々であった。観察中に一度オオハクチョウが、飛び立った時にハクガンも一緒に飛び立ち、その様子を見ていたら、ハクガンがオオハクチョウの近くに寄りすぎて、オオハ

クチョウの羽に触れて、飛ばされ、落ちそうになったり、ついてゆくのに一生懸命羽ばたく姿は何んとも感動的であった。

特に3月31日は、道路から10メートルも離れていないデントコーン畑あと地にオオハクチョウと一緒にハクガンがいるのではないかと。肉眼でもはっきりと見える。じっくりと観察させてもらう事が出来た。何んという幸せ！

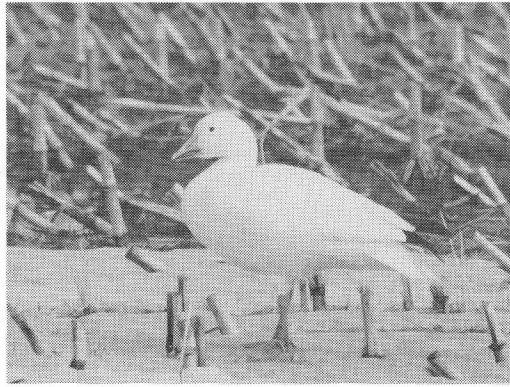
この時は、目を閉じてじっとしている時間が長かった。時々片足と一緒に片側の羽をのぼしては、また目を閉じてじっとしている。くちばしは、上がピンク色で下が黒いのがはっきりと見え、首のところが毛が波うっているのも確認できた。

この個体は、初列風切の黒い羽の部分、かなりすりきれてボロボロになっていたのが特徴であった。

浦幌町でのハクガンの行動は、3月26日初認され、それ以降4月6日まで同町愛中や豊北のデントコーン畑あと地や牧草地に滞在していたが、その後中川郡豊頃町統内のデントコーン畑あと地へオオハクチョウとともに移動した。

最後にハクガン観察に御協力をいただきました浦幌野鳥倶楽部の佐藤満・久保清司氏に感謝申し上げます。

〒089-56 十勝郡浦幌町字吉野68番地
浦幌野鳥倶楽部



ハクガン 1991年3月
浦幌町愛中 武藤満雄撮影

鳥見人からの便り ②

アネハヅルの飛来

掛川 岩太



アネハヅル 1991年6月
八雲町立岩にて 掛川岩太撮影

平成3年6月10日の東の風で曇天。10時30分頃……八雲町市街地より2km離れた遊楽部川より、500m位の位置にある酪農業都築健三氏の牛舎に附属したパドワクにアネハヅルが飛来した。

朝8時から10時頃までと、夕方5時頃より7時頃まで牛糞の中から穀物を探して探食していた。

6月10日・11日・12日の3日間同じ時刻に飛来していたが、天候が回復した13日にはどこかに飛び立っていった。いろいろ情報を蒐集したところ、上空を3羽飛んでいて(方向不明)そのうちの1羽が降りたとのことである。低気圧が来ていたので、渡りの途中降りたものと思われる。

〒049-31 八雲町末広町214

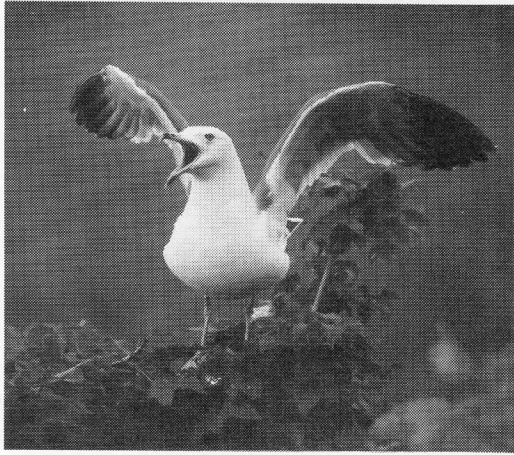
誌上写真展

(2)

平成3年度



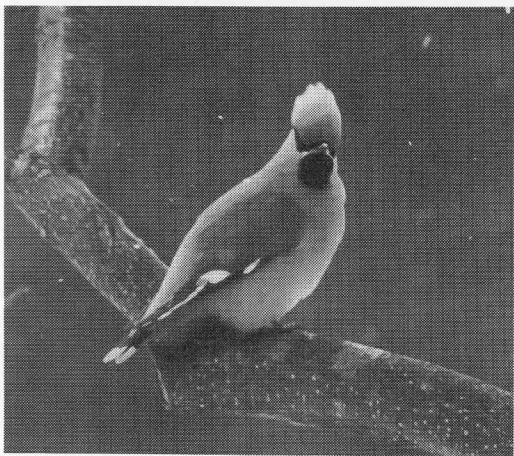
イスカ 山田良造



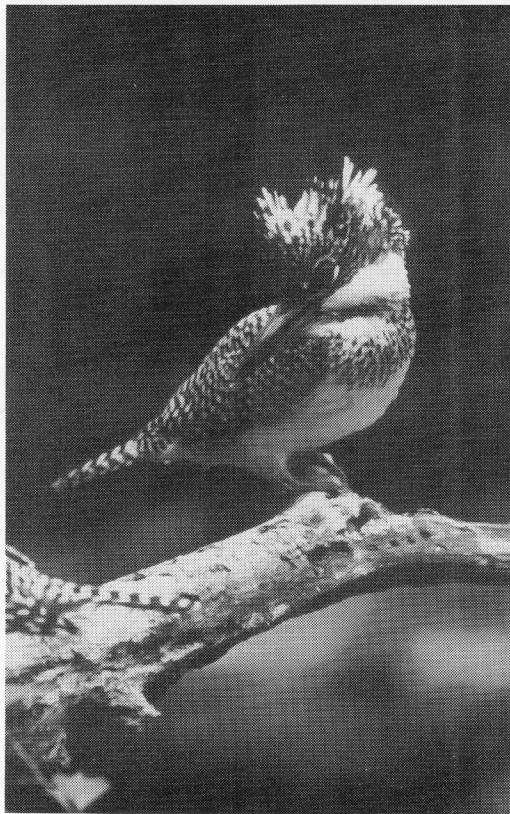
ウミネコ 石橋孝継



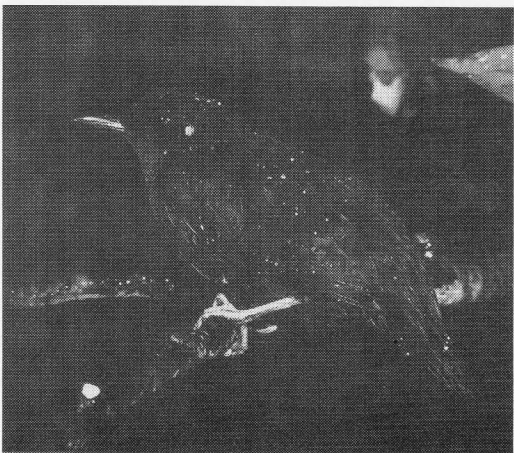
オオワシ 松野有秀



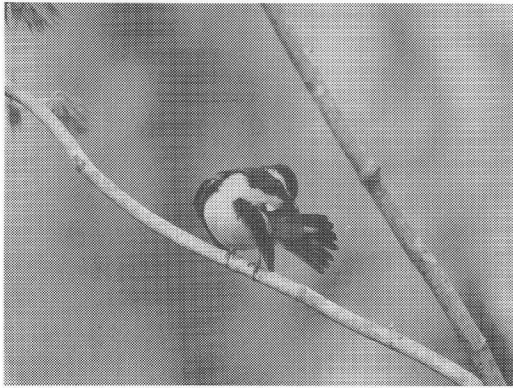
キレンジャク 松野有秀



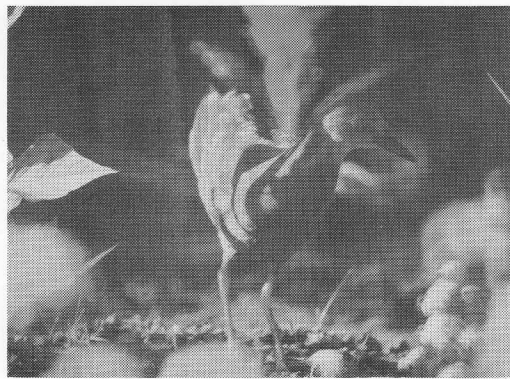
ヤマセミ 酒井光



カワガラス 赤石誠二



キビタキ 遠藤幸子



クイナ 見延誠一



ミユビシギ 三船善光



ノゴマ 遠藤茂



タゲリ 見延誠一



オオルリ 見延誠一

探鳥会
ほうこく

怪しい来客簿
-平和の滝の巻-
3. 6. 22
広川淳子

今年の四月に探鳥を始めて以来、何を見ても、うれしくて楽しくて感激ばかりしてきましたが、夜の探鳥会と聞いて、昼とは違ったドラマが期待できそうと、一にも

二にもなく、参加させて頂きました。

腰に蚊取り線香をぶら下げ、身体には虫除スプレーをたっぷりふりかけ、ポケットには懐中電灯、おまけに夜目の利かぬ従者を一人連れ、何か探検と言う気分で集合場所へと赴いたのです。

六時半過ぎに出発。まだ明るい山道を行くと、とても元気の良いヤブサメの声、アカハラ、キビタキも鳴いて

おり、オオルリの姿もチラリと。夜の訪ずれが次第に急になる中を進んでゆくと、キャンプ中の若者たちに出会いましたが、突然の異様な集団にきつと驚いたことでしょう。

「トラツグミの声が聞こえないね」などと言う皆さんの会話を楽しみながら、やがて目当の場所に到着。月は明る過ぎるくらいに輝き、その横には、火星、木星、金星が並んでいます。新聞によれば二百二十何年振りとのこと。舞台は揃ったようです。

と、突然、皆さんが緊張なさいました。

「コノハズクよ」。「聞こえる、聞こえる」と言うのです。「何処ですか」……ちょっと聞きとれなかったのです。でも耳を澄ましてみると、かすかに「キョッコ」、「コ」がとても小さく、殆んど「キョッ」と聞こえるではありませんか。舌打ちするような感じでヨタカも「キョッ、キョッ、キョッ」と鳴いています。ヤマシギも長い嘴を突き出すように頭上を飛びかいました。月はますます光を増し、マミジロも「キョロチィ」、これで狼でも鳴いてくれたら、と奇妙な想いに駆られます。そう言えば、「ブッポウソウ」と鳴くのがどの鳥なのか、昭和十年まで分らなかったと本にあって、どうして分ったのかも二説あると言うことです。一つは鳴いている所を撃ち落としてみると、コノハズクであった。二つ目は、NHKがラジオの実況中継をしたところ、浅草の床屋に飼われていたコノハズクが鳴き出したので分ったということです。何だか、今宵の雰囲気ピッタリの話のようです。

皆さん、予定の時間を過ぎても動く気配もなく、一夜の怪しい来客簿を開いていったのでした。それぞれに夜の夢に酔いしれながら。

〒064 札幌市中央区伏見町1丁目4-23

〔記録された鳥〕マガモ、ヤマシギ、ジュウイチ、ツツドリ、コノハズク、ハリオアマツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、マミジロ、アカハラ、ヤブサメ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ、アオジ、ヨタカ 以上17種

〔参加者〕榊川保・弘子、泉勝統、山田甚一・れい子、羽田恭子、田中志司子、野坂英三、宇野忠男、広川淳子、戸津高保、竹内強、今野弘、井上公雄、土屋美弥子、池内あみ子、浜田強、菅原哲夫、本間裕邦・桂子 以上20名

〔担当幹事〕戸津高保、井上公雄

始めて見たシギ・チドリ…鶴川にて…

3. 8. 25

池内あみ子

何もかも初めてでした。美しい鶴川の海、乳をまさぐる仔を見やる母馬の優しい眼、そしてシギ・チドリ。すてきな二階バスで現地へ向かいながら、期待と不安でいっ

ぱいでした。どうせ無理と少しよけてきた感じのシギ、チドリなのですもの。

牧場主のご好意で入らせて頂けるという牧場の中へ足を踏み入れ、どきどきしながらキョロキョロしている私。

「居たぞ、タカブだ」小さな水溜りの前に皆集まっていますが、私にはちっとも分らない。もう恥も外聞もなく見せて、見せて」と望遠鏡を覗かせて頂き、石の色に紛れてうづくまっている茶色い鳥をやっと見つけ、ああ、これがシギなのだ、と感激しました。それからはもう夢中、ヒバリシギ、アオアシシギ、キアシシギ、トウネン等々教えて頂いた時は、分ったような気になるのですけど…。アオサギやイソシギは双眼鏡でもどうにか見えませんでした。海の方へ大きく廻るあたりで、ウミネコの大群に見とれていると、「コアオシギだ、珍鳥だよ」という声。急いで覗かせて頂くと小さいのが1羽、足早に歩き廻っており、たしかに他の6羽とは違うようです。どうしてこうよく見分けられるのかなあ、昼食中でも、オバシギを見つける人、シロチドリとコチドリを対比して識別している人…人…。皆さんの熱気と興奮が私にまで伝わって来るようです。最後に草地でキョトンとこっちを見ていたチュウシャクシギの可愛かったこと。砂地でウンランやオグルマを見たのも嬉しかったし、澄み切った秋空の下、本当に楽しい1日でした。

夏羽、冬羽、中間羽、幼鳥とそれぞれ違うとか、もう混沌として、自分の努力不足を痛感させられました。

飛入りで初心の私に、愛護会の皆様のご好意、心から感謝致しております。

〒063 西区西野6条1丁目5-3

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、マガモ、カルガモ、ムナグロ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、コキアシシギ、タカブシギ、イソシギ、キアシシギ、オバシギ、トウネン、ヒバリシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、キツバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒバリ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 以上30種

〔参加者〕三船喜克・幸子、永島良郎・トキ江・麻子、久田伸一・育代・通江、志田博明・政子、岩戸総・恵美子、戸津高保・以知子、佐々木武己、菅原哲夫、佐藤勇、小畑煌治、高橋昭三、野坂英三、小林弘輝、佐藤幸典、吉田忠義、高橋教子、池内恵み子、大西典子、赤石誠二、成沢里美、竹内強、井上公雄、山田良造、石谷義一、浜田強、今野弘、鷺田善幸、小林尚美、小口伸次、笹谷敏郎・京子、佐藤博吉、大町欽子、三浦美重子、古川豊子、沢田浩一・路子、富川徹、道場優、田中志司子、泉勝統、垂沢ちよ、広川淳子、和久雅男、本間桂子、浜中、今田、小畑淳毅 以上60名

〔担当幹事〕富川徹、赤石誠二



【野幌森林公園】

平成4年2月16日(日)

雪上の動物の足跡や木の実等を観察しながら冬の野幌を歩きます。レンジャクの群や、アトリ、ウソ、クマガラ等が期待できます。

歩くスキーがある人は使用して下さい。

集合=9:00 大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台線)新さっぽろ駅発8:20、大沢口公園入口下車、徒歩5分

【円山公園】平成4年3月1日(日)

木の芽のふくらみも感じられ、アトリ、イスカ等の冬鳥や、キツキ類、カラ類等を観察します。開拓神社前のエサ台には、エゾリス等も現れます。午前中に解散の予定です。

集合=9:00 円山公園管理事務所前

交通=地下鉄円山公園駅より徒歩5分

【ウトナイ湖】平成4年3月22日(日)

北へ渡るガン・カモの群や獲物をさがすオオワソ等が見られます。昨年3月の探鳥会は迷鳥カナダヅルが、すくそばに寄ってきました。長ぐつ使用が無難です。

集合=9:40 ウトナイレイクホテル湖畔側

交通=道南バス(苫小牧行)千歳空港発9:10、ウトナイレイクランド前下車

【野幌森林公園を歩きましょう】平成4年4月5日(日)

集合=9:00 大沢口駐車場入口

【野幌森林公園】平成4年4月12日(日)

福寿草や両生類の卵等も見られ森林の中にも春が来ています。この時期は冬鳥と夏鳥の両方が見られ、気の早いさえずりも聞かれます。まだ長ぐつが必要でしょう。

集合=9:00 大沢口駐車場入口

【宮島沼】平成4年4月19日(日)

繁殖地へ帰るマガンやハクチョウの一大中継地である当沼は、珍しいガン・カモが多種観察されます。

集合=10:00 大富会館前

交通=中央バス、岩見沢ターミナル発(月形行)大富農協下車、徒歩15分

○いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行きます。

○交通機関は変更等がありますので、利用される方は、各自で再調査をお願い致します。

○昼食・雨具・観察用具・筆記用具をご持参下さい。

○探鳥会の問合せは、011-831-8636、戸津宅まで。



◆ 新年懇談会の開催

新年懇談会を次のような予定で開催致します。多数の皆さんの参加をお待ちしています。

日時 平成4年1月11日(土) 14:00~17:00

場所 札幌市婦人文化センター

(札幌市中央区大通西19丁目)

講演

北大苫小牧演習林長の石城謙吉氏に、「ススメをめぐる話」や苫小牧演習林の野鳥の話をしていただきます。スライド映写会……みなさんの持ち寄ったスライドを映写します。たくさんのお持ちください。

会費 1人 500円

◆ 写真展の作品のご用意を

平成4年も野鳥写真展の開催を予定しております。みなさんの自信作の準備をお願いします。応募要領は例年通りですが、営業中の写真など、マナーに反すると思われる写真はご遠慮ください。

【募集要領】

・大きさは四ツ切としカラー、白黒は問いません。

・提出写真には、鳥の種名・撮影年月日・撮影場所及び撮影者氏名の記載をお願い致します。

・送付先は、87号でお知らせいたします。

◆ 平成4年度カレンダー販売

初めての試みであるカレンダーは順調な売れ行きですが、少々残部がありますので、前号掲載の連絡先へ、至急申込みください。



もくじ

野村梧郎・松本光二さんを悼む	2
利尻島における野鳥観察リスト	3
北海道に舞い降りた迷鳥たち	7
自然環境部をよろしく 鳥見人からの便り	9
誌上写真展	10
探鳥会報告	12
探鳥会案内	14
鳥民だより	14

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287

〒060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465